

ありまふじ公園の生き物を観察する子ども講座「生態学実習」

中峰空・廣田編子（三田市有馬富士自然学習センター）
佐々木一将・辻新太（講座受講生代表）

「生態学実習」とは？

小学3年生以上を対象に月1回、一年を通して身近な生き物を観察する「キッピー山の生態学実習」を実施している。自然や生き物に興味を持つ児童が集まり、それぞれが自分の目で学ぶ場となることを目的としている。そのため、受講生は自分で発見したものを観察し、記録を取る作業を毎回行い、自ら学べるプログラムとなるよう工夫している。

概要と経緯

平成14年度～21年度までは「キッピー山の生態学実習」の前身となる小学4年生以上を対象とした「キッズ研究員」事業を展開。年度ごとに初級編・上級編と内容を変更し、また専門分野ごとに班分けを行うこともあった。平成18年に「兵庫県環境学習環境教育基本方針」が策定され、小学3年生を対象とする体験型環境教育事業の推進が掲げられたため22年度からは対象学年を3年生以上に変更し「キッピー山の生態学実習」として一年を通して様々な生き物を学ぶ事業展開を行っている。

1年間の主な実施内容

- 4月「春の有馬富士」春の生き物を採集・採取し、ファーブルを用いて観察・スケッチ。
- 5月「有馬富士登山」有馬富士にのぼり、出会う生物の観察をする。
- 6月「オオサンショウウオの観察」一般社団法人兵庫県自然保護協会の協力のもと、三田市小柿羽東川でオオサンショウウオの調査・観察を行う。観察を終え小柿野外活動センターにて詳しい生態を学ぶ。
- 7月「プランクトンの観察」有馬富士公園内にある福島大池及び棚田にてプランクトンを採集。プレパラートの作成方法や顕微鏡の扱い方を学ぶと共にミクロの世界に触れる。
- 8月「ナイトハイク」五感を使って鳴く虫やカエルなど夜に活動する生き物を観察する。
- 9月「タネ標本作り」ひつつく種や羽のついた種などを採集し種子散布型を解説。種の標本作成。
- 10月「キノコの観察」秋のキノコを採集・同定を行う。スケッチをしながらキノコの仕組みを観察。菌類の生態系での役割を学ぶ。
- 11月「有馬富士公園のほにゅうい」哺乳類に詳しい外部講師を招き、毛皮や頭骨を手に取りながら観察。哺乳類の足跡を観察し、石膏でとる。
- 12月「土壌生物の観察」冬越しをする土壌昆虫を観察するため枯れ木やその周辺の土を採取し、土壌昆虫を中心に観察を行う。分解者の役割を学ぶ。
- 1月「冬鳥の観察」福島大池に飛来するカモや野鳥の観察。
- 2月「冬芽の観察」春を待つ植物を観察するため、冬芽の種類を比較しファーブルを用いて芽鱗の形状や切断面を観察。
- 3月「両生類の卵さがし」厳寒期に産卵するアカガエルやカスミサンショウウオの卵や成体の観察を行う。

評価と課題

この活動は開館より約15年、子どもたちに自然や生き物をより深く知ってもらうために続けられてきた。受講生が時を経て再び来館することもある。彼らに尋ねてみると「キッピー山の生態学実習」が原体験となり、後の人生の岐路に少なからず影響を与えていることがうかがえる。現在では、当初

の受講生が学生や社会人となり、様々な分野で活躍している。今後の課題は、巣立った受講生たちが新しい人材育成に関わる場を設けるなど、持続可能な活動維持の仕組みを構築することと考えている。

募集について

毎年2月～3月末に小学3年生以上を対象に公募。生き物の作文とスケッチを描き応募。定員20名。